

氏名(本籍)	阿部悟郎(東京都)		
学位の種類	博士(体育科学)		
学位記番号	博乙第2499号		
学位授与年月日	平成22年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	体育学的人間形成論序説 －シュプラランガーの教育哲学を方法として－		

主査	筑波大学教授	博士(文学)	佐藤臣彦
副査	筑波大学教授	博士(学術)	藤堂良明
副査	筑波大学准教授	教育学博士	清水諭
副査	筑波大学教授	博士(教育学)	吉田武男
副査	筑波大学教授	博士(文学)	米澤茂

## 論文の内容の要旨

### (目的と方法)

本研究の課題は、体育学における「人間形成論」の学的構成の可能性を探り、ドイツの教育哲学者、シュプラランガー (Spranger, Eduard: 1882-1963) の精神科学的教育学における基本的知見に拠りつつ、「体育学的人間形成論」を原理論的に構成しようとするものである。これまで、「人間形成論」は、体育学あるいは体育哲学領域においても論議が重ねられてきているが、しかし、明確な根拠に基づく理論的な論議は不十分な状況にあった。本研究は、こうした現状を批判的に検討し、「体育学的人間形成論」が教育哲学の知見を踏まえることで構成可能であることを示したうえで、シュプラランガー教育哲学が到達した理論枠組みを方法論的に援用することにより、「体育学的人間形成論」に堅固な理論的基礎を与えることを目的としている。

### (構成と概要)

本論文は、序章：予備的考察（①問題の所在、②教育学における人間形成論議とその構造、③本研究の課題）、本論全3章（1. シュプラランガーとその教育学、2. 人間形成論としてのシュプラランガー教育学－体育学的人間形成論の基本的視座－、3. シュプラランガー教育学に基づく体育学的人間形成論の構成）、および結論（本研究のまとめと今後の課題）によって構成されている。

第一章：「シュプラランガーとその教育学」では、まず第1節：「シュプラランガー教育学」において、シュプラランガーが国家社会主義の下でも貫いた学問的誠意について触れつつ、哲学的研鑽を経ながら、研究テーマを教育学に集約させていった経緯を明らかにしている。第2節：「シュプラランガー教育学の基本的視野」では、シュプラランガー教育学の基底をなす、①形而上学的視野、②人間学的視野、③価値論的視野のそれぞれについて、独語原典に基づきながら明らかにしている。第3節：「シュプラランガー教育学の展開方向」では、シュプラランガーの教育理論の展開方向を、①実存哲学的方向、②文化教育学的方向、③覚醒理論的方向の3点にまとめた上で、それぞれの思想的背景及びその内実を明らかにしている。

第二章：「人間形成論としてのシュプラランガー教育学－体育学的人間形成論の基本的視座－」では、まず第1節：「シュプラランガー教育学の人間学的到達点」において、シュプラランガー教育学の継承者、Flitnerに

も視野を広げつつ、彼らの人間理解が、①生物的次元、②文化的次元、③精神的次元、④人格・実存的次元の4階層からなっていることを明らかにしている。第2節：「シュプランガー教育学とその人間形成論の基底としての生成論」では、シュプランガーの生成論がゲーテのメタモルフォーゼ論に依拠していることを明らかにしつつ、それが彼の教育論の思想的集約点となっているとしている。第3節：「シュプランガー教育学の人間形成論の構成」では、「人間形成」が本質的に「豊かさへと向かう遙かなる生成の道程を前進的に進みゆく一人一人の歩みに対する寄与」であるとして、シュプランガー教育学が人文科学的立場に基盤をおくものであることを明らかにしている。

第三章：「シュプランガー教育学に基づく体育学的人間形成論の構成」では、第1節：「体育学における人間理解の論理：体育学的人間形成論の前提」において、シュプランガー教育学の人間学的到達点に基づき、体育学的人間理解が、①生物的次元、②文化的次元、③精神的次元、④人格・実存的次元の4階層でもって了解しうることを論証している。第2節：「体育学的人間形成論の基底としての人間生成論」では、シュプランガーが提起した文化教育哲学と覚醒理論に基づくことで、体育（身体教育）の媒体項である身体運動文化あるいは身体運動にあっても人間生成論が成り立つことを論証している。第3節：「体育学的人間形成論の構成」では、体育（身体教育）でも人間生成の本質層と類比的に、①生物的人間形成、②文化的人間形成、③精神的人間形成、④人格・実存的人間形成の4層から構成されるとし、さらに学校体育の本質が「生成しゆく人間一人一人に対して、人間のなし得る一切のものをもって努める」ことにあるとしている。

以上が本研究の概要であるが、シュプランガー教育哲学を方法として援用することで、体育学的人間形成論が教育学的基礎概念を理論的根拠としつつ構成可能であると結論づけている。

## 審査の結果の要旨

本研究は、「体育学的人間形成論を如何にして理論的に基礎づけ構成するか」という課題に対し、シュプランガーの教育哲学に拠りながら、「体育学的人間形成論」を論理の俎上に載せようと企図したものである。シュプランガーの教育学理論を幅広く見渡したうえで「体育学的人間形成論」構成に援用するというアプローチは斬新であり、これまでの体育学領域では誰もなし得なかった方法論である。また、先行研究を踏まえつつ、シュプランガー及び彼の後継者たちの膨大な文献資料を独語原典によって緻密に分析し、体育学に適用可能な理論枠組みを抽出した研究手腕は高く評価できる。考察がアリストテレス、ピンドロス、ヘーゲル、ゲーテなどにも及ぶ本研究は、「体育学的人間形成論」に堅固な理論的基礎を与えるものとして学術的価値は高く、学位論文として十分水準に達していると評価された。

よって、著者は博士（体育科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。